日刊 動労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

82.11.30 No. 3123

緩ゆる弾圧に抗してストを貫徹しよう

12.5第三波スト！

＊ 対象者及び　全乗務員（貨物及びいすみ鉄道を除く）
対象時間　午前零時以降24時間

（指令ばっすい）

●．各支部は、いついかなる時にも、全組合員を対象としたストライキに突入できる準備体制を継続強化すること。

●．各支部は、闘争体制を確立するために、緊急に執行委員会、全組合員を対象とした個別オルグ等を行い、本指令の徹底をはかるとともに、警察権力・JR当局・JR総連の弾圧・介入に対して、万全の対応ができる体制を確立すること。

●．各支部は、各拠点において、12月4日、12・5第三波スト前夜総決起集会を開催すること。

●．各支部は、不当労働行為摘発行動を強化し、当局の動向把握に努めること。

労働者への事故責任転嫁を許すな。

このままでは第二、第三の東中野事故が起こる
反合・運転保安確立の闘い

本部は第一波スト準備体制確立後も運転保安上の具体的な改善要求をも含め申し入れを行い精力的に団体交渉による要求のかいけつを求めてきたがJR千葉支社当局は、何一誠意を示さず問題解決の姿勢を示さず、十一月十七日の団体交渉もほぼ全面的な対立のうちに終わった。

それのみならず士職の選別発令については、近々のうちに発令を強行しようとしている。

当局は、人事にまでJR総連を介入させ、士職登用等へ露骨な組合差別を持ち込み、動労千葉組合員を強制配転先に固定化させようとする攻撃に出てきているのである。

我々は、決意も新たに権力や、当局の不当弾圧、介入、JR総連・革マルのスト破りを断じて許さず一波、二波の力を倍加させ第三波全乗務員のストライキ貫徹にむけてうって一丈となって闘いぬく決意である。

幕張支部第12回定期大会開く

検修職場で言の出るスト！

幕張支部は、十一月二二日、第十二回定期大会を開催し、一年間の闘う方針と当面の二波（十一・三〇）、三波スト（十二・五）を全組合員がうって一丈となって闘いぬくことを決定した。

会場の弁天町会館は五五名の代議員・傍聴者でギッシリとなるなか、大隅副支部長の開会宣言ではじまり、飯田氏（運転士）を議長に選出し、大会がすすめられた。

石幡支部長はあいさつのなかで、「役員・活動家が強制配転されたが、困難をのりこえ、春闘ストや諸闘争をやりきり、団結を守ってきた。仲間を信じ、事業団に送られた林さん悔しさをみんなのものとして冬からの闘いに全力を尽くそう」と訴えられた。

来賓には、社会党の若松氏と本部中野委員長、田中書記長、滝口、山田両執行委員が出席し、討論に参加していった。

主な質疑は、①スト生活基金について今後、充分討論を深めていく ②検修職場で当りの出るストを打とう ③青年部は親組合の先頭で闘おう、等々が出され、なごやかな雰囲気のなかにも二波、三波ストにむけての決意と緊張感に満ちた大会となった。

われわれは、全支部の仲間と共に、九〇年の激闘をたたかう決意である。

支部役員体制

支部長	
副支部長	
〃	
書記長	
執行委員	
〃	
〃	
〃	
〃	
〃	
〃	青年部長

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年！